

小見山 元伸

### 【中小企業診断士取得を目指した理由】

通信会社にて営業戦略・事業計画の業務に携わっております。

経営幹部や外部のコンサルティング会社の方と接する機会も多く、同じ目線で会話するためには自身の更なるスキル向上の必要性を感じてました。

中小企業診断士取得のための学習は経営戦略やマーケティング・財務等幅広い分野が範囲となる事から、知識・スキルを体系的に身に付け「自分の強み」を作るのに適していると思い学習を開始しました。

### 【MMCに通学する前】

大手予備校に通学し、受験1年目に1次試験は通過できました。2次試験には苦戦したものの、2次試験の学習は面白くて好きでした。

2年目以降は演習や模試で成績上位ランキングの常連になり、教室では勉強会のリーダーに指名されるなど、毎年手ごたえはありましたが、本番では辛酸を舐め続けました。

試験勉強を通じて知識は十分に身につけ、初期の目的は達成したとは思いましたが、「努力の成果を合格という形にしたい」という思いが強く、受験を継続しました。

### 【MMCを選択した理由】

3回目の2次試験の結果が特に思わしくなく、「自分に足りないものは何か」「どうすれば合格できるのか」と途方に暮れました。予備校の先生に相談したところ「先生と私との間での出来ていない点に関する解釈のズレ」について指摘を受けました。改善する時間はあっても、改善しなければいけない点に気付かず補完・修正ができなかったことが原因とのことで、克服するためにはどうすれば良いかを考えました。

予備校の先生が退職されたこともあり、今後の学習について思案していた頃、高い合格率と噂を耳にしていたMMCのWebサイトを見て衝撃を受けました。「少人数による2wayの講義」「個別アドバイス・面談」「再答案添削」など、個に適した指導を受けられるカリキュラムに大きな魅力を感じ、ここなら自分の弱点を正確に把握し克服できると確信し、平日の通学クラスへの申込を即決しました。

### 【2次試験の位置づけの再認識】

オリエンテーション講義にて前田先生から「あなたは何の試験を受けるのですか？」と質問を受けました。当たり前前の質問に驚きましたが、「中小企業診断士の試験です。」と答えました。この時、何の試験を受けるのか言葉にしたことで、中小企業診断士の資格を取得するための試験に臨んでいる自分、中小企業診断士になろうとしている自分を初めて自覚した気がしました。

その後、1次試験・2次筆記試験の位置づけ、2次口述試験・実務補習の位置づけについて説明を受け、2次試験において何が試されるのかを改めて理解し、今まで試験に合格するためのテクニックに目が行き過ぎていた事を反省しました。同時に、過去の蓄積を白紙に戻

し、MMC で再スタートすることを期し、中小企業診断士になったら何がしたいのかについても具体的に考えるようになりました。

### 【MMC での学習】

MMC の講義では特に中居先生の講義が印象にあります。「題意を把握する」「制約条件を守る」などのメソッドや「アンゾフ」「チャンドラー」などの理論、「事業展開、事業特性、組織構造」などの本試験独特の言葉への対応ノウハウなど、毎回目から鱗が落ち、楽しく学習を進められました。

MMC の講義において、心がけたことは以下の 3 点になります。

- ①講義は必ず 1 番前の席で受けること。
- ②講義の復習はその日のうちに終わらせること。
- ③演習・模試・過去問の再答案は必ず提出すること。(演習は受講後 1 週間以内に提出) それぞれの効果としまして、

①については、先生から常に当てられることで脳が活性化しました。間違えて恥ずかしい思いしないように、予習を十分行った上で一言一句逃さないという意識で講義に臨むことで、MMC が伝えるエッセンスを自然と身につけることができたと思います。飛躍的にスキルが磨かれていく感覚がありました。今思えば、口述試験対策にもなっておりました。

②については、鮮明な記憶をその日のうちに記録として残すことで仔細に及んだ記録集ができました。特に「間違ったこと」については原因分析と対策まで記すことが今後の自分のためになります。この記録集を見ると試験勉強を終えた今でも講義の内容を具体的に思い起こすことができます。この記録集を元に「手順書・鉄則集」を作り、試験直前期には「ファイナルペーパー (全 5 枚)」の形にできました。

③については、演習後の講義を受けて「分かったつもり」になっていたことを実行レベルで再現できるか確認する機会とできました。再答案でも 8 割に届かなかった箇所は盲点と認識し、積極的に先生に質問して認識の違いを明らかにして頂くことで弱点の克服に努めました。

### 【合格答案徹底研究講座】

通学講座に組み込まれたこの講座で「採点者の気持ち」を疑似体験することが出来ました。

29 枚の答案を連続で採点して、最初に気付いたことは「字が綺麗な答案には×をつけづらい」ということでした。他にも「本文の言葉を使う事で題意に沿って書いていると採点者に気付いてもらえる」「キーワードで他の答案と差別化ができる」「型のしっかりした解答は読みやすい」などに気付きましたが、結局のところ、MMC のメソッドを採点者側の立場でも理解できたのだと思います。

この日以降、「採点しやすい答案を書く」ことを強烈に意識して演習・模試に臨むようになりました。特に文字改善として、市販のペン字の本を買い、毎日 10 分練習しました。

### 【過去問】

過去問は何度も解いていたことから今更感がありましたが、MMC のメソッドを一通り学んだ3月以降に「MMC のメソッドを本試験問題において応用できるか」を確認する目的で1カ月に1年度分を終えるペースで7月にかけて5年分解き、毎回添削してもらいました。

MMC の演習問題と異なり、本試験問題には設問間の切り分けが難しかったり、出題の意図が（私には）分からない設問が存在することを再認識しました。

本試験のこのような問題への対策が不十分であることに不安を覚え、中居先生に質問をしたところ、「演習や模試ではこのような問題はクレームになるので作りたくても作れない。どこかにヒントを埋め込まざるを得ない。」とのことで「本試験のグチャつとした問題は練習に使うべき。」とのアドバイスを頂きました。

良質な問題から構成される MMC の演習では「型」を身に着ける事が出来ますが、時に奇をてらったよう見える問題も織り交ぜられる本試験問題への対応は本試験を解くことからしか練習できないと気づき、「本試験でこのような問題に遭遇した時にどうするか」を意識しながら過去問の学習を続けました。特に「この問題が初見だとしたらどのように対応するか」と本番を意識して学習するのが効果的だと思います。

#### 【自分の癖の認識と克服】

学習は順調に進み、演習・模試の成績は上位をキープできていましたが、ある時60点を超えるものの平均点近辺の時があり、相対評価の中でこの先沈没していく不安を覚えました。答案返却時に徳川先生に相談したところ、「60点取れば十分。目標は本番で60点取れること。MMC でトップを取る事ではない。点を取りに行っているのが得点を落としている原因ではないか。」と指摘頂きました。

思い当たる節はありました。学習2年目の頃からどうしても人より高い得点や高い順位（優秀答案）を求める自分がおりましたが、演習・試験中に点数や順位を意識すればするほど、期待する得点どころか、大きく題意を外す事を何度も経験しました。

得点を意識すると、変な色気が出て、邪念が入り、「題意を把握すること」「意図に沿った解答をすること」からそれていく自分にGW明けくらいに気づきました。自分の学んだことを最大限に書き出したいくなるスイッチが入り、「自分の書きたいことを書く」暴走に走り、「出題者の求めている解答」を書いてしまう事で自滅していたのだと思います。

それ以降、演習・模試において、「点を取りに行かない」と解答用紙に書いてから問題に取り組むようにしました。以降、大崩れしないようになり、結果としてMMC の教室で1番を取れるようになりました。

#### 【家族サービス】

幼い2人の子供の面倒を見ながら、いかに受験勉強を続けていくかは大きな課題でした。学習時間を捻出できるように妻には最大限配慮してもらいつつも、貴重な幼児期に相手できない心苦しさがありました。

過去には我武者羅に学習をした時期がありましたが、MMC のメソッドはシンプルでやるべき事も明確だったため、MMC に通った10カ月間は比較的家族サービスの時間がとりや

すかったです。私は平日クラスに通っていたため、土日はなるべく子供と遊ぶ時間や外食の機会を捻出して、家族内のストレスを溜めないように心がけました。

受験期間を支えてくれた家族には大変感謝しております。

#### 【体力の維持強化】

1日4事例を解くには相当なエネルギーを消耗します。また、そのための準備には相当な学習が必要で、運動量も落ち体力も低下します。長時間座ったままの姿勢で血流も悪くなり、肩や首が凝ったり、それが悪化すると頭痛持ちになったりもします。

2年目以降、試験本番直前に風邪を引く事象に見舞われました。年間通じて我武者羅に学習したツケが大切な本番に現れたのだと思います。

そのため、体力の維持強化として、「1日1万歩」「ヨガ」「水泳」などを取り入れました。また、事例を一つ解いたら散歩するなど、少しでも体を動かす時間を取るようにしました。

#### 【本試験】

中居先生からの個別アドバイスである「隠れたファイターだと思うので、とんでもない問題に対してやる/やらないの判断がつかずに勝負してしまうとマイナスの方向に出る可能性がある。解けない問題の逃げ方（とにかく与件に忠実に、与件の言葉をなるべく使う）、型通りの問題の対応を意識すること。」などの言葉や自分の弱点・対策等をまとめたファイナルペーパー（全5枚）を持参し、試験に臨みました。

休憩時間中は終わった試験問題のことは考えずに外に出て散歩やストレッチをし、スタミナ回復に努めました。

事例Ⅰ～Ⅲが想定通りに進んだため、苦手な事例Ⅳにおいては「40点確保」の気持ちで取り組みました。

風邪も引かず、万全のコンディションで完全燃焼できた事に満足感がありました。ただ、数日後、事例Ⅳにおいて大きな失点をしていたことが分かり、合格発表前には不合格を確信し、翌年の試験対策を考えながら悶々と過ごしておりました。

#### 【試験を終えて】

2次試験の合格証書を手にして以降、心の変化を感じます。特に「試験に合格できた自信」が何よりも大きいです。どんなに追い込まれ、精神的につらくても「自分の頭で考え結論を出すこと」が試験勉強を通じて身につけ、合格により証明できたことが自信につながっていると思います。

現在、実務補習に取り組んでおります。試験勉強を通じて学んだ知識を応用して診断業務を体験できること、また、試験会場で同じ試験に臨んだ方々と同じ目的に向かって知恵を出し合い切磋琢磨できることに喜びを感じます。

「体系的な知識・スキルを身に着けること」を目的に始めた資格取得へのチャレンジでしたが、MMCでの学習を通じて「この資格を活用したい」という思いが芽生えました。登録後は企業内診断士としてのスタートになりますが、今後実践経験を積み重ねることで、この資格を活かす方向性を模索します。

最後になりますが、MMCの先生方、特に平日クラスでお世話になった中居先生、勝山先生、徳川先生には大変感謝しております。大変楽しく有意義な講義をありがとうございました。今後もMMCから多数の合格者が排出されることを祈念いたします。